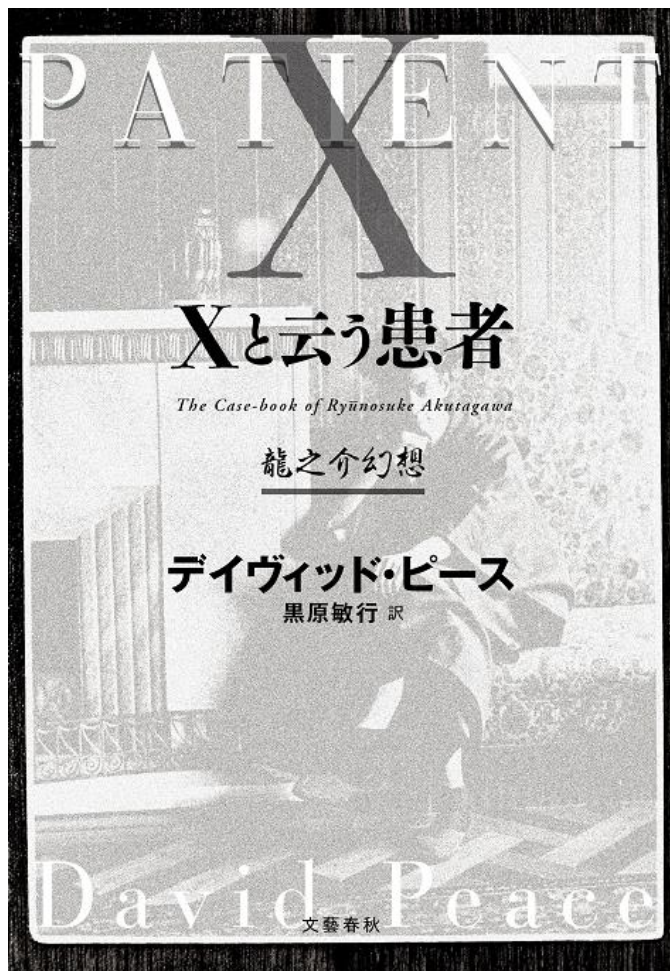


この小説を読む者は、二度三度と、芥川の文学的狂気に侵される。
イギリスの鬼才が芥川を憑依させて織り上げた幻想と不安のタペストリー。

「奇跡のような一冊。」（柴田元幸）



Xと云う患者

龍之介幻想

デイヴィッド・ピース著 / 黒原敏行訳

「あの文豪の生涯と作品を織りまぜて、リシャッフルし、夢見直して、
12の妖しい、美しいピースに仕立てた本。それだけで十分すごいが、
さらにこの日本語版は、原文の独特にリズムを緻密に再現し、
等しく妖美な作品を再創造している。奇跡のような一冊。」

——柴田元幸

小説家、芥川龍之介。東方と西方の物語と伝承と信仰に魅せられた男。彼は立つ——震災の東京に、戦争の迫りくる上海に、切支丹の影の落ちる長崎に、そして己の中に渦巻く不安の風景の奥底に……。

イギリスの鬼才が芥川文学をコラージュし／マッシュアップし／リミックスし、芥川龍之介の生涯を恐るべきビジョンと魔術的な語りを通じて幻想文学として語り直した長編小説を、コーマック・マッカーシーやリチャード・パワーズらを手がけた黒原敏行が芥川自身の文章と精密によりあわせて完成させた日本語版。半透明の歯車が帝都を襲った震災の瓦礫の彼方にうごめく。自ら生み出した虚構の分身が彷徨う。河童。ポオ。堀川保吉。ドッベルゲンゲル。鴉。マリア像。歯車。羅生門、藪の中、蜘蛛の糸、西方の人——。文学的にして音響的。イギリス文学であり日本文学。近代文学であり現代文学。あらゆる境界を融解させ、越境する、恐るべき野心作。

お問い合わせ先：文藝春秋・プロモーション部 03-3288-6142 (tel) / pr@bunshun.co.jp